

たりけむを元主が考に其曆法ならすとい、又皇極天皇二年癸卯より曆法を改め給ひ、
 へば、そのかみ百濟の改法なりしなるべし、又皇極天皇二年癸卯より曆法を改め給ひ、
 曆なり、但しこれ又百濟改曆の法なりし、又皇極天皇二年癸卯より曆法を改め給ひ、
 き由なし、もるこは唐の太宗が世の貞觀十七年にてなほ元嘉曆を用ひたりけむ、
 皇五年より元嘉曆を用ひ給ひ、元嘉は劉宋の文帝が世の年號に當れり、文武天皇元年より儀鳳曆を用
 ひたりしなり、儀鳳は唐の高宗が世の年號にて、文武天皇の御世に當れり、
 〔天朝無窮曆〕此卷朔策、自前卷神武天皇東征甲寅歲至此卷末孝安天皇四十一年十月三百十
 六年間、先天曆也、是以後、用後天之朔策。

神	武	天	皇	元	辛	西	年
正小	雨水	正月	朱書	庚辰朔	七小	處暑	
寅 壬	丙 戊	申 初		申 戊	己 丑	十三日	
庚 辰	申 初			丁 丑	卯 丑		
寅 寅				五 辰	五 辰		
二大	春分	九日		八大	秋分	十五日	
卯 癸	丁 巳	巳 丑		西 己	庚 申	庚 申	
己 酉	巳 丑	三		丙 午	申 申	申 申	
六 申				八 戌	七	七	
三小	穀雨	九日		九小	霜降	十五日	
辰 甲	丁 亥	午 五		戌 庚	庚 寅	寅 寅	
己 卯	亥 午	五		丙 子	寅 寅	寅 寅	
初 卯				二 巳	初	初	
四大	小滿	十一日		十大	小雪	十七日	
巳 乙	戊 午	亥 七		亥 辛	辛 酉	酉 未	
戊 申	午 亥	七		乙 巳	未 三	三	
四 酉				五 亥			
五小	夏至	十一日		十一小	冬至	十七日	
午 丙	戊 子	巳 初		子 壬	辛 卯	卯 子	
戊 寅	子 巳	初		乙 亥	子 五	五	
七 卯				八 巳			
六大	大暑	十三日		十二大	大寒	十八日	
未 丁	己 未	戌 三		丑 癸	辛 酉	酉 巳	
丁 未	未 戌	三		甲 辰	巳 七	七	
二 戌				三 子			

〔自娛集七〕授時曆翼解序 略 中

本朝天武帝以前、未知用何曆、持統帝四年始用元嘉曆、後用儀鳳曆、廢帝仁淳改儀鳳曆而用大衍曆、
 文德帝用五紀曆、清和帝貞觀三年停大衍曆而用宣明曆、宣明曆之行於本邦、因循久矣、迄乎貞享元
 年、既歷八百二十三年、其差忒寢甚矣、幸今逢聖明之時、嘗有詔改曆順大統曆之法、而微損益之、造貞